



女性医師支援センター便り

男女共同参画 新たな社会のあり方への挑戦

宮城県女性医師支援センター委員
宮城県保健福祉部医療整備課医療政策専門監
大久保 久美子

宮城県女性医師支援会議の委員として、7月27日に山口市で開催された日本医師会主催の第9回男女共同参画フォーラムに参加してきましたので報告します。

第9回男女共同参画フォーラム	
日 時	平成25年7月27日(土) 午後1時～4時45分 フォーラム 午後6時～7時30分 懇親会
場 所	フォーラム 山口県総合保健会館 多目的ホール 懇 親 会 ホテルニュータナカ 平安の間
主 催	日本医師会
担 当	山口県医師会
メインテーマ	みんなちがって、みんないい ～伝えたい、豊かな医療人をめざすあなたへ～
次 第	
開 会 (13:00)	
挨拶	日本医師会長 横 倉 義 武 山口県医師会長 小 田 悦 郎
基調講演 (13:10～14:10)	
	「より良い医療のために、より良いキャリアのために」 講 師 国際医療福祉大学副学長 桃 井 眞 里 子
報 告 (14:10～14:25)	
	1. 日本医師会男女共同参画委員会 2. 日本医師会女性医師支援センター事業
ショートブレイク (14:25～14:35)	
シンポジウム (14:35～16:35)	
	「みんなちがって、みんないい～伝えたい、豊かな医療人をめざすあなたへ」
コメンテーター	国際医療福祉大学副学長 桃 井 眞 里 子 日本医師会常任理事 小 森 貴 貴
シンポジスト	医事評論家 行 天 良 雄 子 山口大学医学部教授 瀧 谷 景 子 いしいケアクリニック 原 田 唯 成 山口県医師会男女共同参画部会長 松 田 昌 子
第9回男女共同参画フォーラム宣言採択	
閉 会 (16:45)	

基調講演をつとめた国際医療福祉大学副学長である桃井眞里子先生の、「男女共同参画とは、つまるところ良質な労働力の確保と人材育成であり、男女平等という観点より国を支えるために男女とも人材育成していかなければならない。」との言葉に新しい視点を強く感じました。

平成22年の女性医師の占める割合は18.9%ですが、29歳以下になると35.9%です。また、平成10年以降医学部の女子学生の割合は30%を超えており、女性医師が医師全体の4割になるのは時間の問題といえます。

これまでは、医師不足の問題は医師全体の量的問題として医学部定員の増員、臨床研修制度等の対策がとられてきましたが、女性医師の増加という医師の人口構造の変化による労働力

の不足という質的な観点からも医師不足対策を考える必要があります。また、女性医師の増加は地域の偏在、診療科の偏在という問題へも影響を与えているといわれています。

妊娠・出産・子育て中の女性医師の勤務継続やキャリア形成が困難といわれている現状の勤務環境では、それ以外の医師へも負担がかかることになり、医師が高齢化している都市部以外の地域医療の現場では、さらに影響が大きくなります。このことは女性医師支援だけの問題に留まらず、地域医療提供体制の確保という医療の根幹をなす重要な問題であり、対策を早急に考えていく必要があります。

桃井先生は、「女性医師問題は、単に、育児中の短時間勤務、長期育児休暇などだけで対応す

宮城県女性医師支援センター

べき問題ではなく、男女ともに医師として国民への貢献責務を十分に果たすためには、教育、労働環境、社会環境の整備の視点で解決されなくてはならない。今後必要とされるのは、新しい働き方、価値観、家庭のあり方、共に働き、共に育てる社会の創成であり、男女共同参画は新たな社会のあり方への挑戦である。」と喝破なさいました。

シンポジストの山口大学医学部附属病院医療人育成センター男女共同参画支援部門長の澁谷景子先生は、アメリカ留学中に指導教官から“What do you want to do?”と聞かれたそうです。若い学生は、「医師と子育て両方できるか」と心配するが、「両立して何をやりたいか」を聞くと明確に答えられない。“What do you want to do?”を常に自分に問うて、自分が何をしたいのかを明確にしていくことが重要という話は、大変印象的でした。

また、桃井先生から男性管理職の皆様へ、男女とも区別なく期待して育成すること、何を期待しているかを明確に言語化して伝えてやること、本人が気づかない能力を指摘してやってほしい、「プロは困難を楽しめ」と背伸びしないキャリア育成を図ること等のメッセージがありました。

シンポジウムにおいては、4人のシンポジストそれぞれの立場からの発表後に、2人のコメンテーターを交えて、示唆に富んだディスカッションが行われました。最後に、第9回男女共同参画フォーラム宣言採択が満場一致で承認されました。

来年は、第10回目の節目を迎え、7月26日（土）日本医師会館大講堂（東京都）を会場に開催される予定です。

第9回男女共同参画フォーラム宣言採択

宣 言

今、日本社会ではかつてないほど女性の潜在力が重視され、その能力を発揮することが期待されている。社会のあらゆる分野で女性の参画を促すための環境整備が急務とされ、意思決定の場への女性の登用が強く求められている。

この期待に応えるべく、われわれは、医師として情熱と志をもって社会に貢献し、かつ、個人としても生きがいを感じることが出来る環境を作らなければならない。

21世紀の複雑で多様な社会において、男女を問わず豊かな医療人をめざすため、次のことを宣言する。

- 一、われわれ医師は人の命と健康を守り、社会に貢献する責任を負う。
- 一、われわれは、生涯にわたり学び続ける姿勢を貫きキャリアを全うする人材を育成する。
- 一、医師の働き方に対する多様な価値観を受け入れ、真の男女共同参画を実現する。

平成25年7月27日

日本医師会第9回男女共同参画フォーラム

